

TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE

東京農業大学教職課程

Annual Report

平成30年度版

実験科学



進化する教員養成

学校・地域社会とつながるチーム農大

体験学習



発想力

人間力

協働力

支援力



ものづくり



平成29年度 農大教職課程世田谷・厚木キャンパス 主な活動報告

- 4月** 新入生教職課程ガイダンス
平成30年度教員採用試験直前対策講座開講
教育委員会による教員採用学内説明会(～5月)
平成30年度教員採用試験大学推薦学内説明会及び選考
- 5月** 教員採用試験教育法規・学習指導要領勉強会
教育ボランティア募集説明会
4年生教育実習開始
- 6月** 教員採用試験1次対策講座開講
新入生教職課程履修申込ガイダンス
- 7月** 介護等体験への派遣開始
1年生教職課程履修申込
- 8月** オープンキャンパス
免許状更新講習開催
教員採用試験2次対策講座開講
夏季若手教員研修会開催
高大連携(農業実習)
免許法認定講習開催

- 9月** 平成31年度教員採用試験対策講座開講
教採対策講座・教員採用試験合格者から学ぶ
教職実践演習開講
- 10月** 1年生教職課程履修開始
- 11月** 収穫祭
ホームカミングデー
教職実践演習(現地演習)学内説明会
教育研究フォーラム
教採対策講座・教員採用試験合格者から学ぶ
教育委員会による教員採用学内説明会(～12月)
- 12月** 世田谷・厚木合同第5回教育実習全体指導
高大連携(学生による出張授業)
- 2月** 現地演習報告会
- 3月** 卒業式(教員免許状授与)



本学で取得できる免許状

■ 普通免許状

学 科	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
農学部		
農学科	理科	理科・農業
動物科学科	理科	理科・農業
生物資源開発学科	理科	理科・農業
デザイン農学科	—	農業
応用生物科学部		
生物応用化学科	理科	理科・農業
醸造科学科	理科	理科
食品安全健康学科	理科	理科・農業
栄養科学科	理科	理科
生命科学部		
バイオサイエンス学科	理科	理科・農業
分子生命化学科	理科	理科・農業
分子微生物学科	理科	理科・農業
地域環境科学部		
森林総合科学科	理科・技術	理科・農業
生産環境工学科	理科・技術	理科・農業
造園科学科	理科	理科・農業
地域創成科学科	—	農業
国際食料情報学部		
国際農業開発学科	理科	理科・農業
食料環境経済学科	社会	地歴・公民・農業
国際バイオビジネス学科	社会	情報・農業
国際食農科学科	—	農業

■ 栄養教諭免許状

学 科	免許状の種類
応用生物科学部	
栄養科学科	一種免許状

※平成30年度入学者

教員採用試験対策講座 —若手先輩教員から学ぶ—

教員採用試験対策講座では例年「若手先輩教員から学ぶ」と題して、首都圏に勤める新規採用1～2年目のOBOG教員を招き、「教員採用試験合格への道」を伝授していただいております。今回は第1回目が平成29年9月23日(土)午後、日高市立高麗川小学校・栄養教諭の平塚萌先生、東京都立羽村特別支援学校・技術科教諭の星川将範先生、千葉県立大多喜高等学校・理科教諭の牧野敦先生の3名、第2回目は平成29年12月2日(土)午後、千葉県流山市立南流山中学校・理科教諭川崎諒子先生、神奈川県川崎市立南菅中学校技術科教諭の小林崇先生、東京都立農芸高等学校・農業科教諭の城定春奈先生の3名が来学され、学生時代の教育実習の様子、教員採用試験までの準備方法と実際の面接試験や模擬授業などの工夫点、さらに新任教員として学校現場で奮闘している様子を語っていただきました。後半では受講学生一人一人の質問や悩み事に丁寧にアドバイスするなど、教員を目指す後輩たちに大きな力と勇気を与えていただきました。



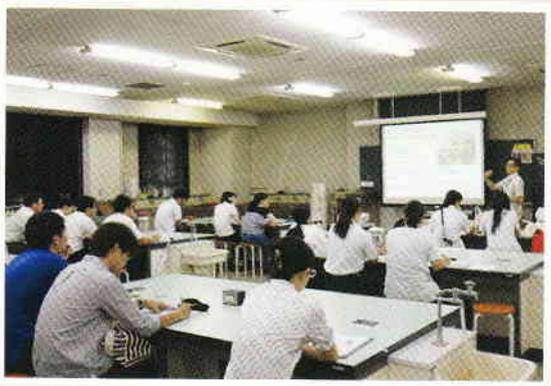
平成29年度 教職課程履修者数

学年	1年生										2年生										3年生										4年生									
	人数	農業	中学位	高校	技術	社会	地歴	公民	情報	実習	人数	農業	中学位	高校	技術	社会	地歴	公民	情報	実習	人数	農業	中学位	高校	技術	社会	地歴	公民	情報	実習	人数	農業	中学位	高校	技術	社会	地歴	公民	情報	実習
農学科	36	18	12	19	※	※	※	※	※	※	31	23	14	16	※	※	※	※	※	※	33	21	21	21	※	※	※	※	※	※	49	28	27	35	※	※	※	※	※	※
畜産学科	35	23	18	20	※	※	※	※	※	※	20	18	13	14	※	※	※	※	※	※	29	16	19	18	※	※	※	※	※	※	28	17	16	16	※	※	※	※	※	※
バイオセラピー学科	11	3	7	9	※	※	※	※	※	※	15	2	14	14	※	※	※	※	※	※	40	18	30	30	※	※	※	※	※	※	52	15	48	48	※	※	※	※	※	※
厚本 計	82	44	37	48	0	0	0	0	0	0	66	43	41	44	0	0	0	0	0	0	102	55	70	69	0	0	0	0	0	0	129	60	91	99	0	0	0	0	0	0
生物応用化学科	19	4	16	17	※	※	※	※	※	※	12	0	12	12	※	※	※	※	※	※	16	1	16	16	※	※	※	※	※	※	21	4	21	21	※	※	※	※	※	※
醸造科学科	5	※	5	5	※	※	※	※	※	※	8	0	8	8	※	※	※	※	※	※	10	※	10	10	※	※	※	※	※	※	8	※	8	8	※	※	※	※	※	※
栄養科学科	22	※	5	6	※	※	※	※	※	21	27	※	8	9	※	※	※	※	※	26	26	※	4	5	※	※	※	※	※	23	12	※	3	3	※	※	※	※	※	11
バイオサイエンス学科	19	3	18	18	※	※	※	※	※	※	25	5	23	24	※	※	※	※	※	※	25	1	24	25	※	※	※	※	※	※	21	5	21	21	※	※	※	※	※	※
分子生命化学科	10	1	10	10	※	※	※	※	※	※																														
分子微生物学科	17	3	16	16	※	※	※	※	※	※																														
森林総合科学科	16	12	12	12	7	※	※	※	※	※	36	23	25	25	18	※	※	※	※	※	29	12	24	25	17	※	※	※	※	※	42	14	35	36	19	※	※	※	※	※
生産環境工学科	10	4	8	8	3	※	※	※	※	※	21	8	20	20	6	※	※	※	※	※	22	7	16	16	9	※	※	※	※	※	19	7	17	17	14	※	※	※	※	※
造園科学科	9	7	6	6	※	※	※	※	※	※	10	6	7	7	※	※	※	※	※	※	9	7	6	7	※	※	※	※	※	※	16	11	11	11	※	※	※	※	※	※
地域創成科学科	4	4	※	※	※	※	※	※	※	※																														
国際農業開発学科	32	22	24	25	※	※	※	※	※	※	36	18	31	31	※	※	※	※	※	※	35	19	23	24	※	※	※	※	※	※	28	18	18	19	※	※	※	※	※	※
食料環境経済学科	24	13	※	※	7	15	11	※	※	※	33	15	※	※	13	19	16	※	※	※	35	21	※	※	13	20	17	※	※	※	35	23	※	※	18	22	19	※	※	※
国際バイオビジネス学科	11	7	※	※	1	※	※	7	※	※	11	7	※	※	1	※	※	6	※	※	10	6	※	※	6	※	5	※	※	※	8	6	※	※	4	※	※	5	※	※
国際食農科学科	6	6	※	※	※	※	※	※	※	※																														
田田谷 計	204	86	120	123	10	8	15	11	7	21	219	80	134	136	24	14	19	16	6	26	217	74	123	128	26	19	20	17	5	23	210	88	134	136	33	22	22	19	5	11
生物生産学科	18	18	※	※	※	※	※	※	※	※	7	7	※	※	※	※	※	※	※	※	17	17	※	※	※	※	※	※	※	※	18	18	※	※	※	※	※	※	※	※
アグバイオ学科	18	※	18	18	※	※	※	※	※	※	14	※	13	13	※	※	※	※	※	※	17	※	16	17	※	※	※	※	※	※	14	※	10	13	※	※	※	※	※	※
食品香粧学科	9	※	9	9	※	※	※	※	※	※	7	※	5	7	※	※	※	※	※	※	5	※	2	5	※	※	※	※	※	※	7	※	5	7	※	※	※	※	※	※
地域産業経営学科	11	※	※	※	6	※	11	※	※	※	9	※	※	※	5	※	9	※	※	※	7	※	※	※	2	※	6	※	※	※	14	※	※	※	7	※	14	※	※	※
オホーツク 計	56	18	27	27	0	6	0	11	0	0	37	7	18	20	0	5	0	9	0	0	46	17	18	22	0	2	0	6	0	0	53	18	15	20	0	7	0	14	0	0
大学 計	342	148	184	198	10	14	15	22	7	21	322	130	193	200	24	19	19	25	6	26	365	146	211	219	26	21	20	23	5	23	392	166	240	255	33	29	22	33	5	11

*各学年、入金実績より算出

夏季若手教員研修会

平成29年8月11日(祝日・山の日)に「身近な動植物、材料を用いた実験の紹介」というテーマで「夏季若手教員研修会」を開催しました。今年も関東圏内や遠方からの若手OB教員、現役学生合わせて約20名の参加がありました。講師として(財)進化生物学研究所の蝦名元先生をお招きし、授業に使える理科分野の教材として身近な生物を用いた実験を行い、「食と農の博物館」内にある進化生物学研究所のバイオリウムも案内していただきました。今年は、本学教職課程で毎年開発している教材紹介として、色から物質循環を捉えるためのモデル教材である体色変化をさせたザリガニの紹介やサケやオキアミなどを使い、食物連鎖を色から観察する実験として薄層クロマトグラフィーを行いました。本研修会での新しい視点を取り込んだ体験型授業を通じて、参加した現職教員をはじめ、教員を目指す学生たちも興味深く実験に取り組んでいました。研修会後の情報交換会では、学生たちが現職教員から多忙ながらも楽しい教員生活について拝聴し、教職への思いを新たにしていました。



第20回東京農大教育研究フォーラム

平成29年11月11日(土)に中高教員と地域の方々、教職課程履修生を対象として、農大アカデミアセンター横井講堂にて「東京農大教育研究フォーラム」が開催されました。講師は、授業研究を通じた学校の組織開発を研究テーマに長年取り組んでこられた国立教育政策研究所研究企画開発部総括研究官 千々布敏弥先生、林学の専門家として地域と連携した教育・研究活動を長年リードしてこられた本学地域環境科学部地域創成科学科教授 宮林茂幸先生のお二人。千々布先生には「新しい学習指導要領と高大接続改革が目指す小学校から大学までの学びの姿」と題して、新学習指導要領のキーワードである「主体的・対話的で深い学び」の授業実践の要となるアクティブ・ラーニングに教員がどう取り組むのかについて具体的にご解説いただきました。また、宮林先生には「山村と都市の交流による体験学習」と題して、源流大学をはじめとする体験学習の活動から「山村の教育力」に着目し、里山体験・本物体験を通して循環型社会を担う人づくり＝環境人の養成の大切さをお話いただきました。お二人のご講演は、次世代を担う教職課程の学生たちへ教育への熱いメッセージと新たな指標を与えて下さいました。



オホーツク教育科学アカデミー訪問

平成29年12月2日(土)開催のオホーツク教育科学アカデミーでは「現場貢献」をテーマに、教育現場と大学との効果的な連携のあり方や学生による教育への多様なアプローチの基礎研究を今後の教育へどう生かすのかについて、議論を深めました。

平成 29 年度 教育実習への取り組み： 実践的指導力を育む



教育実習全体指導

本学の教職課程では担当教員による個別指導及び学生全体へ向けた全体指導を併せて行っています。個別指導では模擬授業や教材準備、教育課題の討議など、教員となる上で必要となる事柄を学びます。全体指導では、教育実習の準備や事務手続きを遂行しています。特に、毎年 12 月の全体指導では世田谷・厚木両キャンパスの学生が一同に会し、現職の校長先生をお招きして教育実習の様子や心構え、準備すべき事柄など大変貴重なお話をご教授いただいております。平成 29 年度は午前中に豊島区立千早小学校の大関房代校長先生、午後には港区立白金の丘学園の伊藤俊典校長先生よりお話を賜りました。両先生の教育実習生時代のお話や、食育や小中一貫教育校の特徴についても学ぶことができました。学生からの多くの質疑応答もあり、実習に向けての率直な疑問に対するお答えをいただくことが出来ました。



新刊本紹介

教職課程農業科教育研究室 村上敏文教授の『まんがでわかる土と肥料—根っこから見た土の世界—』が刊行されました。『現代農業』に連載され、村上先生のイラストとコミカルな語り口で難しい土壌の話をつわりやすく解き明かした書。高校生・大学生・農業科の先生方へもおススメです。(農文協・定価 1,400+ 税)



教職実践演習の取組



教職実践演習の内容

教職実践演習は「全学年を通じた学びの集大成」の授業として、4 年次後期に実施されます。授業担当教員は個々の学生の履修履歴を把握し、それを踏まえて指導することで、学生に教員として必要な資質や能力を自覚させることを目指しています。

この教職実践演習の趣旨とねらいを達成するために、本学教職課程は『教職実践指導資料』を作成し、15 回の授業を全担当教員が同じ内容で実施するようにしています。その内容には中教審答申を踏まえて事例研究、フィールドワーク、模擬授業を取り入れ、それ以外に教材開発や中教審答申を資料にした討論も取り入れました。15 回のうち数回をこれまでの学びを振り返り、その学びを今後どう生かすのかを考える時間にあてています。

フィールドワークは近隣の学校にお願いして、学校公開期間中の授業と連携させていただき、学生が 1 つまたは複数の授業を見学しそこでの学びを記録するという方法で実施しております。平成 29 年度秋に学生の授業見学を受け入れて下さった世田谷区立桜丘中学校、世田谷区立笹原小学校、厚木市立南毛利中学校には厚くお礼申し上げます。

この授業見学に加えて、本学教職課程では、教員採用試験に合格し 4 月から教員になることが確実な学生には、公立中学校や農業高校での 5 日間の「現地演習」を課しています。最終回に全員が参加する現地報告会におけるスピーチは、これまでの大学生活を振り返り、今後の抱負を述べる感動的なものになりました。



教職課程研究室訪問



理科教育研究室 苗川博史教授

教職課程を履修する農学部畜産学科3年の池内美里さん、佐藤桃子さん、永岡風音さん、小見山大夢さんが苗川先生にインタビューを行いました。

苗川先生は、「理科教育法」の授業に毎回「今日の一品」*を導入しています。*ここでの「今日の一品」とは優れた教材と思われるものを意味しています。料理のアラカルトとは区別しています。

Q. 今までの「今日の一品」の総数はいくつですか？

A. 授業の回数だけあるので、総数については数えたことがありませんが1000は超えています。

Q. 一番最初に考えた「今日の一品」は何ですか？

A. 丹沢で採集した野生鹿の角です。

Q. イチオシの「今日の一品」は何ですか？

A. 哺乳類の頭骨です。

Q. どのような基準で「今日の一品」を選択していますか？

A. 授業の導入に使えるものであれば何でも「今日の一品」としています。

Q. 現在、どのような研究を行っていますか？

A. 理科教育に関しては、中学・高校の現場で役に立つ物理・化学・生物・地学分野の教材開発と研究です。農大生は物理を苦手とする学生が比較的多いため、理科教員を目指す際に苦手意識をなくすように興味のある各種教材開発に努めています。つまり得意とする専門科目を核に理科関連科目に自信をもって指導できるようにと教育しています。授業においては、絶えず身近なものからサイエンスへつながるよう心がけています。

私個人のライフワークとしては、羊・山羊の音声（鳴き声）コミュニケーションと放牧行動管理を研究課題にモンゴル草原を主なフィールドとして取り組んでいます。

Q. 研究内容をどのように学校現場に取り入れたいですか？

A. 教員を目指す学生たちが学校現場に活用かつ生徒に還元できる内容を取り入れていくことを考えています。

Q. 教員の際に、一番印象に残っていることは何ですか？

A. 教員初日の授業です。生徒からの視線と緊張感は今でも記憶に残っています。自己紹介を重ねていくうちに生徒からの手ごたえと期待感を感じ、明日からの授業に希望を持たれたことです。

Q. 教員の際に、どのような点を意識して授業を進めていましたか？

A. つまらない授業だけはしないように心掛けました。わかる授業、興味を持てる授業を意識して取り組みました。これまでの経験を整理して具体的かつ現実的な話を進めていました。

Q. 教材を作る際に、どのような工夫をしていますか？

A. 絶えず新しいものがないかを探しています。これまでにある教材でも工夫と改良を重ねていくことでオリジナルなものが出来上がっていきます。100円ショップで購入できるものにも教材として活用できるものが沢山あります。

苗川先生から教員となる農大生へ

研究と教育は車と言えば両輪です。自らの課題を抱いて生涯の教員生活を送って下さい。



平成30年度 教員採用者数&合格者の声

採用種別	人数
● 正規採用(公立)	89 (70)
● 常勤講師(公立)	13 (4)
● 実習助手(公立)	4 (2)
● 正規採用(私立)	4 (1)
総計	110 (77)

※平成30年4月5日現在。カッコ内は既卒者。
※大学院生・科目等履修生は既卒者扱い。



〈公立校〉 正規採用(既卒) 正規採用(現役) 常勤講師 実習助手 〈私立校〉

※公立校正規採用合格者数の集計につきましては、全国の各教育委員会にご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

横浜市立中学校合格(理科)



私が教職課程をとった理由は、教員免許を取得して教員になることを目指していたからです。農大の教職課程に関係する全ての先生方は、優しく熱心な指導をしてくださります。教職課程を取ったことで、普段は経験できないような様々な実験や実習をすることができました。教職課程をとって、ぜひ充実した4年間の大学生活にしてください！！

(国際農業開発学科・平成30年3月卒)



富山県立高校合格(農業)



教職課程を受けることで学んだことはとても多かったです。座学だけでなく、実習も並行して行うことで教員になるための知識と技術を両方学ぶことができました。履修科目が増えることや、夜遅くまで講義があり大変かもしれませんが、その分有意義な学習ができると思います。

(造園科学科・平成30年3月卒)

東京都立高校合格(農業)



教職課程は授業数も多く、他の学生より大変ですが、履修することで、教員のみでしか感じるののできないやり甲斐や、実態を深く知ることができます。しかし、履修をして免許を取得することで教員になれる訳ではないので、覚悟と努力を忘れずに頑張ってください。

(造園科学科・平成30年3月卒)

東京都立中学校合格(技術)



とにかく学校ボランティアなどに積極的に参加をし、生徒と関わる機会を多くもつ。そのような経験をしておくと、面接の時に答えやすくなる。また、余裕をもって試験に臨めるよう、4年の4月から勉強を始めるようにした方がいい！

(生産環境工学科・平成30年3月卒)

茨城県立高校合格(理科・生物)



どうして教員になりたいのか、どんな教員になりたいのかずっと悩み続けると思います。でも、だからこそ人一倍充実と成長を感じることが出来る職業だと思います。ここが人生の分岐点です、覚悟を決めましょう！

(農学科・平成30年3月卒)

埼玉県立高校合格(理科・生物)



教職を履修することで得られた経験や知識は自分の視野を広げてくれるものとなりました。また、交友関係が広がったことや、農大一面倒見の良い素晴らしい先生方に出会えたことも私にとってとても大きなことでした。農大の後輩の皆さんと共に教員として一緒に働ける日を楽しみにしています！

(醸造科学科・平成30年3月卒)

千葉県立中学校合格(技術)



教育に関する条約などは、だいたい覚えておくと試験の時にかなり有利です。受ける県の教育方針などを完璧にしておけば試験や面接のときに答えられます。私が思うに、部活を続けるなど一生懸命取り組んだこと、また、若者らしく純粋で誠実な考え方があり、面接官の先生方に好印象を持ってもらえます。

(生産環境工学科・平成30年3月卒)

茨城県立中学校合格(理科)



教職を取ることで心に大きな余裕ができます。しんどい！と思ったときは、隣の友達と踏ん張ってください。また、大学四年間で何か一つでも自分の強みを作っておいてください。たくさんの国に旅行したても良いです。教採の一番の武器になります！

(バイオサイエンス学科・平成30年3月卒)

川崎市立中学校合格(理科)



教員採用試験は早く始めた方が有利。また、自分が志望している自治体であれば、大学推薦は絶対に狙った方がよい。教員を目指す人は、自分を信じてチャレンジして下さい。

(化学科・平成30年3月卒)

富山県立高校合格(農業)



少しでもやりたいと思ったら挑戦あるのみ。チャレンジするのは大変なことですが、頑張った努力は自分の力になる。信念や思いをもって行動する人は魅力的です。だから、ダメもとでも、がむしゃらでも、自分の思いをぶつけて挑戦してみたいです。ふぁいと！

(農学科・平成30年3月卒)

長野県立中学校合格(理科)



教職課程を通して、同じ目標を持つ仲間や先生、多くの方々に出会い学んだことで充実した大学生活になりました。私は教員になるために、机の前に目標を掲げて強い気持ちで勉強をしていました。4月から情熱と愛情を持って生徒たちに接していきたいと思います。

(農学科・平成30年3月卒)

千葉県立中学校合格(技術)



農大の教職課程の強みは、自分の専門性を活かす教員を目指すことだと思います。だからこそ教職の学びはもちろん、学科の学びも決して無駄にはいきません。4年間は短いですが、よく学び、よく遊び、自分だけの「色」を持つ教員へと羽ばたいてください。

(森林総合科学科・平成30年3月卒)

東京都立中学校合格(技術)



学科の授業と教職の授業との両立は非常に大変でしたが、私に多くのものをもたらしました。教職課程を取っている学生の中には、教師を第一希望にしていな人も多くいると思います。しかし手を抜かず、一生懸命に、けれど気持は楽にして頑張ってください。

(森林総合科学科・平成30年3月卒)

平成30年度 教職課程世田谷・厚木キャンパス 主な年間スケジュール

- 新入生へのガイダンス<4月>
- 教育委員会、東京私立中学高等学校協会担当者による学内説明会<4月～5月>
- 学校ボランティア説明会<4月～5月>
- 教育実習生の派遣<5月～11月>
- 新入生（1年次生）教職課程履修申し込み<6月>
- 介護等体験への派遣<3年次 7月～2月>
- オープンキャンパス<8月>
- 平成30年度免許状更新講習の開催<8月4日(土)～8日(水)>
- 夏季若手教員研修会の開催<8月11日(祝日)>
- 平成30年度免許法認定講習<8月20日(月)～25日(土)>
- 教員採用試験対策講座の開催（世田谷・厚木キャンパス）<9月～翌年8月><講座全38回、模擬試験3回予定>
- 教育研究フォーラムの開催（世田谷キャンパス）<11月23日(金)>
- 教職実践演習（現地演習）学生派遣<11月～翌年2月予定>

平成30年度夏季若手教員研修会

日時：平成30年8月11日(山の日のため祝日) 13:00～16:00

場所：東京農業大学「食と農の博物館」2階セミナールーム

講師：東京農業大学教職課程 武田晃治・(財)進化生物学研究所 加納一三

研修内容：身近な動植物、材料を用いた教材体験

進化生物学研究所研究員の加納一三氏を講師としてお呼びし、身近な生物の意外な能力を観察・実験により確かめます。また、本学教職課程武田准教授が開発している身近な色素を用いた教材の体験も行います（「食と農の博物館」見学も含む）。

平成30年度 免許状更新講習

日時：平成30年8月4日(土)～8日(水)

受講対象：中学校技術・中学校理科・高等学校理科・高等学校農業のうち、いずれかの免許状所持者

受講定員：30名（受講料 35,000円）

講義内容：必修領域 「教育の最新事情」 平成30年8月4日(土) 選択必修領域 「教育の最新事情」 平成30年8月5日(日)
選択領域 「バイオテクノロジー・プログラミングと木工・地域再生」 平成30年8月6日(月)～8日(水)

応募条件：5日間すべて受講できる方

応募方法：平成30年5月16日(水) 10:00～受付開始予定

東京農大ホームページから「免許状更新講習受講申込書」をダウンロードし、メールでの申し込みとなります。（先着順）

平成30年度 免許法認定講習

日時：平成30年8月20日(月)～25日(土)

受講対象：公立農業関係高等学校勤務の実習助手（教諭免許未修得者）

受講定員：30名

応募条件：勤務成績が良好で学校長の推薦がある者

応募方法：詳細は教職学情課（03-5477-2512）へ。

第21回 東京農大教育研究フォーラム

開催日時：平成30年11月23日(金) 13:00～16:00

開催場所：世田谷キャンパス 1号館132教室

講演者及び講演題目：東京農業大学農学部デザイン農学科教授 森田茂紀

「バイオマス作物の栽培研究から考える農業と環境」

東京農業大学教職・学術情報課程教授 苗川博史

「大学理科教育における『今日の一品』」

共催：東京農業大学教職課程／全国教職員部会連絡協議会

後援：東京農業大学校友会／東京農業大学教育後援会

東京農業大学教職課程ホームページ

<http://www.nodai.ac.jp/edu/index.html>

東京農業大学教職課程 Annual Report [平成30年度版] 世田谷・厚木キャンパス編

東京農業大学教職課程

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

教職学情課 03-5477-2512

No.4 2018年4月16日

c-mail:kyosyoku@nodai.ac.jp